

ハイランドのモルトを飲みつくす産地別ハイランド(2)

秋の夜長に“ちびちび”～広大な高地に思いを寄せ



スコッチウイスキー6大産地の中で最も広大な地域ですが山がちで人口は疎らです。多くの自然が残っており、早めに短い秋がやっていますが、とても美しい季節です。蒸留所は40か所ほどありますが、どこも個性豊かです。今回はいくつかの地区から特徴的なシングルモルトを6種類選びました。

ハイランド各地区のウイスキー お好きなだけ
会費:3000円 (おつまみ付き・飲み方は自由)

9月13日(金)、14日(土)、21(土)、22(日)、27(金)、28(土)

他の日も応相談

17:00 - 20:00 要事前連絡 於:Café & Bar 朝堂院

北ハイランド



バルブレア05
1826年設立。「平らな土地」という意味。ヴィンテージ毎に製品化されている。バランスがよく余韻が続く。仕込み水はピート色が濃いと言われる。



TOMATIN Cask Streng
あのトマーティンの美味しさが強烈にやってくる。オロロソシェリー樽使用。リッチでコクがある味わい。とにかく美味しい。絶対ストレートがおすすめ。



グレンモレンジ18年
1843年創業。樽のパイオニアと言われる。後熟成の先駆者。その中でも18年熟成にはこだわりが凝縮されている。パッションフルーツの芳香と深い濃厚な味わい。



グレンドロナック12年
1826年創業。蒸留所名は「ブラックベリーの谷」。シェリー樽熟成でフルーティーでビターなバランスがある。スペインサイドとの境界にある。

東ハイランド



anCnoc 12年 40%

1894年操業開始。スコットランドで最も小規模と言われる Knockdhu 蒸留所の製品。柑橘系の爽やかさ。ドライフルーツや蜂蜜の甘さとナッツのkok。ストレートで。

小規模



Fettercairn Foir 42%

1824年設立。エンブレムが目をはひく。一角獣は純潔と強さを示すスコットランドのシンボル。アーチはヴィクトリア女王を迎えるために町の入り口に建設されたもの。2010年から自社でポトリング(生産量の5%)されたレア品。トフィーなどのリッチな味わい。

ユニコーン



Teacher's ARDMORE Legacy 40%

1898年設立。ブレンドウイスキー Teacher's の原酒用に William Teacher の息子が創業。意味は大きな丘。蒸留所の守り神として鷹が描かれています。ドライで爽やかなスモーキーフレーバーが特長で、ハイボールがおすすめ。

DEANSTONE Legacy 42%



1785年にコットンミルとしてスタート。産業構造の変化により1966年に、豊富な水を背景に、蒸留所へ転身した。名称は1500年にこの地を戴いた領主に由来する。ケンタッキーのオークの新樽で熟成。柑橘系、蜜、ややスモーキー。味わいはトフィーやクリーム。

紡績用水車

Tullibardine Sovereign 43%



1488年からビールを醸造していた。1503年には王室御用達になる。ウイスキーの醸造は1949年からで、2013年にフランスの会社を買収された。ソプリンとは国王や統治者を意味する。フローラル、甘い麦の香り。パニラと柔らかいスパイス。

王室御用達ビール

廃墟からの復活

Wolfburn Northland 46%



1821年に設立されたが、数十年で荒廃し、廃墟となった。2011年頃に再建され、2016年から独自ブランドをリリース。印象は、柑橘系のフルーツと柔らかいスモーキーさ。味わいはやや甘くてスパイシー。



GLENGOYNE Cask Strength
ハイランド最南部の旨口をつくる蒸留所。10年ものと飲み比べると押しの強さがわかります。ストレートで。



グレンドゴイン10年
1833年創業。ローランドとの境界上に位置する。10年物はアロマティックで清潔な味わい。

南ハイランド